

# インターナショナルフェスティバル2022 協会設立35周年記念式典 同時開催



永年表彰会員の皆様と来賓の松戸徹船橋市長

10月23日(日)、協会主催のインターナショナルフェスティバル2022が、ふなばしアンデルセン公園で開催されました。この日の同園は無料開放デー、家族連れであふれ、多くの皆さんがフェスティバルに参加しました。

今年は協会設立35周年にあたり、ステージで記念式典が行われました。嘉規洋会長は「コロナ禍の困難な中、オンラインによる交流会など、新たな活動も始まりました。約65万人の船橋市に約1万9千人の外国人が暮らしており、その方々を支えられる地域づくりが大切です」と話しました。

来賓の松戸徹船橋市長は「協会は姉妹都市交流から

はじまったが、今では外国人住民の支援へとつながっています。船橋市で暮らす外国人が母国に帰って『船橋はいいまちで、温かなまちだった』と言ってもらえたら、子どもたちが世界に出ていくときの大きな力になります」と挨拶しました。

その後、協会に15年以上在籍された個人会員64名と36団体の表彰が行われ、代表して第2代会長の金子三智子さんが挨拶しました。「姉妹都市交流に尽力されたハイワード市のレイ・ツルモトさんと電話で話しました。95歳でお元気だとのこと。人と人が支えあうことが国際交流の基本、長く続けましょう」と話されました。

## ステージ

続いて舞台では、演奏や踊り、体操などが繰り広げられました。オープニングは、中国伝統芸能である一瞬でお面が変わる「変面」を見せてくれた王文強さん。市の国際交流員であるグエン・ティ・チャーさんは市内に暮らすベトナム人に声をかけ15人が集まり、お揃いのシャツで歌と踊りを披露しました。

南米エクアドルのパウルさんは色鮮やかな衣装で、壮麗な民族楽器を響かせました。Yurikoさんのデンマーク体操、アンデス工房の南米音楽と踊り、3Q体操協会による実演が続き、フィナーレの米国出身のポール&ジョジョの軽快な歌声に会場は大いに盛り上がりました。



変面の王文強さん



ベトナムの踊りと演奏



Yurikoさんと一緒にデンマーク体操



3Q体操のみなさん



パウルさんの演奏



ポール&ジョジョでフィナーレ

## 模擬店・フリーマーケット

「ハイワード市派遣高校生コーナー」のテントでは、派遣生たちは留学した経験談を映像で見られるようにしたり、綿あめを販売したりして大人気でした。船橋商工会議所より無料提供の船橋特産「ホンビノス貝」のみそ汁には、長い列。コミュニティーセンターの前では、船橋商工会議所青年部がオーデンセ市との友好の証として企画した、デンマークのエルダーフラワーの香る「アンデルセンビール」も販売されました。ド

ム内では、船橋障がい者地域福祉連絡会の皆さんによる手作りの焼き菓子や雑貨、インド、ベトナム、ミャンマーなどの飲み物や食べ物が販売され、どれもおいしそうでした。みんなの広場では、バングラデシュの刺繍雑貨、エクアドルのアクセサリやセーター、会員有志による店などが、フリーマーケット会場を彩っていました。



インドのトルさんの店



留学派遣生の綿菓子店



エクアドルのアクセサリ

## スタンプラリー

公園内ではスタンプラリーが行われ、多くのボランティアスタッフが6カ所のポイントで協会設立35周年にちなんだクイズを投げかけていました。ゴールするとプレゼントが用意され子どもたちは大喜び。小さい子どもを連れた家族連れからお年寄りまで800人近い参加者にスタッフはうれしい悲鳴でした。



デンマークの農家の前には長い列



少し離れたハートのトピアリーで

## やさしい日本語講座開催

7月30日（土）午前、市職員研修所で25名の参加者を得て、やさしい日本語講座が開催されました。講師に、NPO法人多文化共生リソースセンター東海の代表理事、土井佳彦氏をお招きし、日本人には慣れた言葉である「土足厳禁」を、「くつをぬいでください」に置き換えるなど、外国人に「伝わる」ように「やさしい日本語」を使うことをテーマにお話しいただきました。後半、市民向けの行政のお知らせ文書をやさしい日本語に直してみる練習を行い、参加者は思いのほか難しいことを実感している様子でした。最後に、外国人と接する時は、「易



席の近い人同士で熱心に実践練習

しい言葉、優しい気持ち、お互い様の姿勢」が大切だとお話いただき、講座を終了しました。

## 災害時外国人支援サポーター養成講座開催

8月20日（土）午後、市職員研修所で、講師に一般社団法人国際多文化研修ラボの代表理事、松本義弘氏をお迎えし、令和4年度の災害時外国人支援サポーター養成講座が開かれました。船橋市だけでなく、柏市や浦安市の国際交流協会の方も含め25名が参加しました。

前半は、日ごろの生活でも外国人が直面する「3つ（言葉・制度・心）の壁」が、災害時には一層高くなり、そうした壁を和らげるために、外国人支援サポーターには、「やさしい日本語」の使い方や情報トリアージ（取捨選択）の知識が必要になること等が説明されました。

後半は、災害時に設営される災害多言語支援センターでの活動を想定した、実践的な訓練を行いました。課題は、「東京湾を震源とする大きな地震が発生」と

の想定のもと、行政から出された情報を取捨選択し、最も大切な情報を、外国人にも分かるように10分間でまとめてみるものでした。後でグループワークによる演習の講評も行われ、やさしい日本語活用のコツもご紹介いただきました。



グループで熱心に話し合う参加者

# 地球っ子 子ども日本語教室

7月24日（日）に、「日本語であそぼう・まなぼうふなばし2022」を開催。日頃対面とオンラインで別々に日本語の勉強をしている小1～中3までの子どもたちや兄弟、保護者14人とボランティア6人がいっしょ

に、千葉市動物公園に行きました。動物ビンゴカードを首に提げ、答えを探して園内を回りました。学習だけでは得られない会話も生まれ、学年やボランティアとの年齢を超えた交流も体験することができました。



千葉市動物公園で



男子グループはゆとりでビンゴ



女子グループも話し合いながら

8月30日（火）には、一般社団法人松の会主催の能楽教室に参加。

数カ月間行われている教室の中で、この日は特別に外国の子どもたち向けの教室を企画してくれました。茶華道センターの和室で行われ、地球っ子で日本語を勉強しているフィリピン、スリランカ、インドネシアの子どもと家族10人が参加しました。重要無形文化

財総合指定保持者である観世流能楽師の松木千俊先生の直接の指導で、短く要領よくまとめてくださった英語の資料を用い、謡い、舞い、囃子の3つを体験できました。緊張した面持ちで背筋を伸ばし、熱心に先生のまねをして、少しだけ日本の伝統芸能に触れられた時間でした。



袴をはかせてもらい、少し緊張



先生の声に合わせてリズムよく



## お知らせ

### ・日本語学習支援者養成講座申し込み受付中

協会主催の日本語教室で活動するボランティアの養成講座を開催します。

1月14日から3月25日までの毎週土曜日（1月21日と2月11日を除く）午後3時半～5時半 全9回  
中央公民館

申し込み方法など詳しくは、11月15日の広報ふなばし、協会ホームページをご覧ください。

### ・外国語講座（中国語・英語・ベトナム語）を対面で開催中

1～3月コースの申し込みも12月9日まで受付中です。詳しくは右の二次元コードよりWebサイトをご覧ください。



### ・国際理解セミナー 3年ぶりに再開

令和5年1月24日（火）に開催予定です。詳しくはメールマガジン、広報ふなばし（1月15日号）、協会ホームページをご覧ください。

### ・メールマガジンにご登録ください

イベント、講座のご案内やボランティアの募集の情報をお知らせします。登録は右の協会ホームページの二次元コードよりお願いします。

